

令和7年10月22日

令和7年度 総務経済委員会 行政視察報告書

伊豆市議会総務経済委員会 浅田藤二

日時 令和7年10月8日(水)～9日(木) 2日間

①新フェリーターミナルと周辺及びフェリーの運営状況

10月8日(水) 10:30～11:30 清水港江尻ふ頭



受付 チケット売り場



事故のあった台船を確認



船上から周辺を見る



船内1階には、キッズスペース

まとめ

清水駅から徒歩数分で直結している、新乗り場は利用しやすい。

乗り場の移動により、浅底を確認しきれずスクリュウの損傷などがあり、運航に支障をきたし

運休が今も続いている。伊豆市からの負担金は2,200万円。船内の魅力向上やイベント開催など積極的な営業努力の説明があったが、船の老朽化や費用対効果を考えると、さらなる運営努力や運航にかかわる事故をおこさない努力が必要だと感じた。

② インバウンド対応と宿泊税導入予定の経緯

10月8日（水）14：30 ～ 16：30 富士河口湖町役場委員会室



町役場は、外観、内部についても素晴らしかった。エスカレーターには驚いた。

まとめ

・インバウンド対応について

テレビで報道されているように、訪日外国人が多くなった頃は、対応が追い付かず住民に迷惑をかけたがそれぞれ、問題解決に動き対応を続けてきて今は、苦情等もなくなってきた。

・宿泊税導入予定の経緯

宿泊税は法定外税で町にとって $+\alpha$ の収入になる。一律200円の定額を徴収することで、ホテルや旅館の皆様の徴収事務軽減につながる。

アンケートや説明会、会議を数多く行い、住民や事業者の声を導入に向けて数多く反映していた。

まとめ

富士河口湖町はインバウンド効果で、最高税込を更新している。併設されている子ども館も素晴らしい環境で子育てにお金がしっかり使われていることがわかった。目的税を活用し自主財源をいかに増やしていくかがこれからの地方行政の大きな課題だと感じた。また、できるだけ徴税業務の負担軽減のため、複雑化はさけ、一律徴収が問題やトラブルが起きにくいのではないかな。

③古民家を利用した宿泊施設

10月9日(水) 9:30 ~ 11:30 小菅村 大家 崖の家



大家の正面玄関

大家の内部 梁はそのまま使用

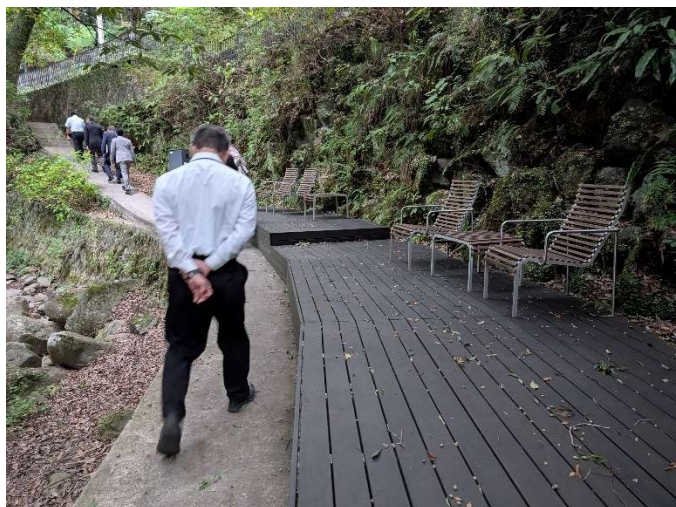
- ・地域が抱えている課題は、見る角度を変えればチャンスになる。
- ・地域に散らばっている小さな宝物を集めて、線でつないで面として捉える。
- ・大規模な開発をしないで、そこにあるものを活用して、新しい価値を生み出す。

過疎化が進む、伊豆市内の山間の集落と人口700人の小菅村は、同じ規模。

視察をつうじて挑戦し、行動することが大切だと強く感じた。

④官民連携の温泉場(万葉公園)再生及び宿泊税導入

10 月 9 日 (水) 15:00 ～ 17:00 万葉公園 玄関テラス 2 階会議室



川沿いにベンチやデッキを整備



民間事業者が運営する、温泉施設

温泉場(万葉公園)再生

パーク PFI 事業により、国 1/2 県町 3/4 事業者 1/4 の支出割合で、整備事業が行われた。湯ヶ島地区の湯道の改修は来年度から行われる。川沿いには川をながめる施設が点在整備されており、おおいに参考になった。また、民間会社が運営する「万葉の湯」は、完全予約制で食事と入浴ができる。日帰り温泉施設の新しい運営形態。会社は、万葉公園全体の施設管理もしている。公園全体の価値、ブランド力を高めることにつながっている。

宿泊税の導入

導入にあたり、先進自治体の調査、事業者の考え、市民の声を丁寧にひろい実施にむけて取り組んできたことが伺えた。宿泊料金 5 万円未満は 300 円。以上は 500 円とし、徴税事務を行う事業者には 50 万円のシステム改修の補助制度(50 万円限度 10/10)が設けられている。

全体のまとめ

伊豆市が検討している観光税については、自主財源として早期に導入すべきだと今回の視察をとおして思っています。また、徴収事務を考えれば、よりシンプルに複雑化しないことが大切だと感じています。

富士河口湖町では、どこをみても外国人の姿があり、インバウンド効果により税収が増え、子育てや施設整備に使われ、町に勢いを感じました。

小菅村では、700人の村が町をなくさないために、今あるものに着目し視点を変えて活用していくこと、行動することが大切だと痛感。

自主財源を増やして、課題解決に注力し、問題を克服していくこと。視点を変えれば、私たちの住む伊豆市は全て宝物でそれを活かす行動をする、実際に動いてみる大切だと一歩踏み出すのに有意義な視察となりました